



旅たちに向けた思い

校長 高山 直也



3月の声を聞くと、学校では別れの季節がやってきたと感じます。最高学年として、学校を支えてくれた6年生も巣立ちの時を迎えます。義務教育最初の6年間は、幼児から思春期へと急成長する6年間でした。いっしょうけんめい毎日を過ごし躍動していた1年生の頃は、小さな手に学んだことを握りしめて家に帰ってきたことでしょうか。「あのね、あのね、…」と話したいことをいっぱい詰め込んだ、あのキラキラした目。その小さな子供たちが、今や大人への入り口に差しかかっています。見違えるほど大きくなり、運動会では本気の熱量・迫力と、学校の為に奔走する頼もしい姿に誰もが心を打たれました。その目は6年間の学びや喜怒哀楽を映し込み、今や未来を見据える目へと成長しました。

学校の6年間は日数で言うと約1,200日です。楽しくてわくわくしたり、けんかしたり悩んだり、分からなかったり怒ったり、泣いて目をはらしたこともありました。負けることもたくさんありました。思えば、自分の思い通りになることの方が少なかったかもしれません。でも人間として生きていく中で、この白金小学校で経験したことに、無駄なことは何一つありません。

川の流れに例えるならば、山深い源流の細い流れは、いつしか激しい流れに変わり、岩にぶつかり、渦を巻き、滝に打たれながらも仲間(支流)を伴い、一心に下流を目指します。小学校はそんな時代なのかもしれません。その後川はいつしか清流となって穏やかに流れ、淵を作って深く広くなっていきます。時に嵐のために氾濫することもあります。汚れた水が途中で入ってくることもあるでしょう。海に近付くにつれ川の色は青く深くなり、ゆるやかな流れは少々の汚れをものともせず、悠々と人々の生活をうるおす大河となります。



細かった川の流れは、たくさんの知識と仲間を携え大きく広くなりました。これからは、蓄えた知識と知恵と友情で大地をうるおし、田畑をうるおし、そして生きとし生ける者たちをうるおして、大きな揺るぎない深みのある大河へと成長してほしい。学ぶことの意味は、働くことの意味は、生きることの価値は何かを問い続け、命いっぱい輝いてほしい、心からそう願っています。

争いのニュースが毎日飛び込む今…考えます。子供たちが学んだその先にあることは、決して争いを起こすことではない、決して人を悲しませることではない。白金小学校での学び、卒業生たちの思いが、どうか世の中を変え動かす力になりますように。卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。そして今年度、白金小学校を支えていただいた全ての方に感謝いたします。ありがとうございました。

来年度に向けて

教務主任 三辻 由貴

本年度も白金小学校の教育活動にご理解、ご協力をいただきありがとうございました。心より感謝申し上げます。

来年度は白金小学校150周年です。記念式典を11月15日(土)開催いたします。また、運動会を10月25日(土)、学習発表会を11月29日(土)に実施する予定です。そのほかの行事につきましては、3月中旬頃に改めてお知らせをいたします。来年度もさらにより実践ができるよう計画を立てております。引き続き、ご協力をよろしくお願いいたします。